

方向性4 「豊かな心と活発な交流を育む多彩な文化のまち」

概要

地域に息づく祭事や伝統芸能、舞台芸術など地域文化の継承・発展は、区民の誇りを高めるとともに、心に潤いをもたらします。

地域の歴史・文化を守り伝えながら、若者を中心とした次々と生まれる新たな文化を受け入れ続けるとともに、区民一人ひとりが文化を身近に感じる豊かな暮らしの実現に向けて、様々な文化の担い手が地域一体となってまちを盛り上げていく多彩な文化活動を展開します。

学びのスタイルの多様化に応じて生涯学習の「場」を整備するとともに、居場所や交流の機能を有し、文化振興、生涯学習、地域コミュニティの拠点となる図書館を実現します。

さらに、スポーツに親しむことができる機会や環境を整えることで、誰もが人や地域とつながる、スポーツを通じていきいきと健康で豊かな生活を実現します。

4

豊かな心と活発な交流を育む
多彩な文化のまち

- | |
|----------------------|
| ① 地域文化・伝統文化の継承と発展 |
| ② 文化芸術への参加・創造の機会の創出 |
| ③ 学習活動の支援を通じた生涯学習の推進 |
| ④ 多様な役割を持つ新たな図書館の実現 |
| ⑤ 生涯を通じたスポーツ活動の推進 |

文化芸術
生涯学習
スポーツ



施策(4-①) 地域文化・伝統文化の継承と発展

目指す姿

○地域の文化資源が適切に保存され、持続的に活用されることで、区民一人ひとりが地域の伝統文化や地域文化に誇りと愛着を持っている。

現状・課題

歴史的価値を損なわない文化財の保存と活用

区民意識調査によると、44.5%の区民が文化資源の保存・活用を今後重視すべき優先事項として挙げており、文化財の保存やその利活用に対する関心が高いことがわかっています。

文化財を適切に保存するだけでなく、その歴史的価値を損なわずに現代に適した形で活用し、広く区民や来街者に伝える手法の工夫が求められています。特に、デジタル技術を活用した保存と活用の仕組みが課題です。

地域文化・伝統文化の継承

区内の各地域で長い間受け継がれてきた文化を守り、未来に引き継ぐためには、区独自の文化を次世代に効果的な方法で伝えることが必要です。そのためには、まず、区特有の地域文化や伝統文化を子どもたちや地域住民、来街者に知ってもらい、関連イベントへの参加を通じて多世代との交流を促すことで、文化に触れる機会を創出することが大切です。

取組方針

歴史的文化財の継承と魅力発信

- 豊島区には、自由学園明日館や雑司ヶ谷鬼子母神堂といった国指定重要文化財、雑司が谷旧宣教師館などの都指定有形文化財、鈴木信太郎記念館をはじめとする区指定有形文化財があります。これらの文化財について、それぞれに適した維持管理と、デジタル技術を駆使したバーチャル展示や体験型イベントの実施、SNS等により魅力発信を行うことで、区民や来街者が文化財に触れることができる環境を整えるとともに、歴史的価値を守りつつ、持続的な文化財の活用を推進します。
- さらに、長年にわたり区内で保管されてきた池袋モンパルナスを代表とする貴重な絵画や地域の民俗資料、豊島区の風景写真などは、多様なワークショップや講演会を通じて、区民が直接触れることができる機会を増やします。関係各所と連携した積極的な情報発信や、こうしたプログラムを通じて、区民や来街者に資料の価値を的確に伝え、文化財の継承と活用を推進します。

地域文化・伝統文化の担い手づくり

- 長崎獅子舞や富士元囃子、伝統工芸、池袋モンパルナスなど、豊島区に根付く多様な文化を継承し、その魅力を広く発信します。これらの地域文化や伝統文化が次世代に継承されるよう、区民の誇りや愛着を高める取組を、地域住民や学校、企業、NPOなど様々な団体との連携を通じて強化します。具体的には、これらの地域文化や伝統文化を活用したイベントを通じて質の高い芸術に触れ、ワークショップを定期的に行うことで、区民や来街者が文化に親しむことができる機会を増やします。
- 地域の文化活動を通して、年齢、性別、国籍を問わず幅広い人々が交流し、豊島区の文化を愛する人を増やすことで、地域の文化の担い手を育てる好循環を生み出します。

【施策の効果を表す代表的な指標】

指標		現状値	目標値				
		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度
成果指標	郷土資料館・雑司が谷旧宣教師館・鈴木信太郎記念館・昭和レトロ館の来館者数【人】	97,099 (2023年度)	108,000	114,000	120,000	127,000	134,000
成果指標	「歴史的財産である文化財や文化資源が大切に保存・活用されている」について肯定的な回答をする区民の割合【%】	33.1 (2023年度)	35.3	36.4	37.6	38.8	40.0



施策（4-②）文化芸術への参加・創造の機会の創出

目指す姿

○区民の誰もが文化芸術に触れ、様々な形で文化活動に参加し、心豊かに文化的な生活を送ることができる。

現状・課題

文化を通じた豊かな暮らしの実現に向けて

これまで、文化によるまちづくりを区の基本政策に据え、「国際アート・カルチャー都市」として、区内外に情報発信し、まちの価値を高めるとともに、様々な文化活動を展開してきました。

一方で、コロナ禍により、地域で孤独感を抱える区民が多く顕在化するなか、区民一人ひとりが心の豊かさを実感できる生活が求められています。

文化芸術は人々の心を癒し、生活を豊かにする役割を果たし、その重要性が改めて認識されています。

区民や地域の文化団体、学校、企業に加え、福祉団体などとの連携のもと、区民生活のあらゆる場面に文化の裾野を広げることで、人々のつながりや交流を促進し、地域のコミュニティをさらに発展させる必要があります。

世代や国籍、障害の有無を問わず、様々な背景を持つ人々が、文化を通して孤立感なく心豊かに暮らしていく社会を構築することが求められています。

取組方針

文化鑑賞機会や文化活動の裾野の拡大

- 「としま文化の日」を中心に、地域の文化施設を最大限に活用して魅力的な文化事業を展開します。区は活動の場を提供し、民間事業者には魅力的な事業やイベントの提案・応援を促進することで、互いの強みを生かした公民連携を進めます。
- 障害者や子ども、外国人など、多様な背景を持つすべての人々が楽しめるよう、福祉団体や学校などと連携し、演劇、音楽、アートなどを鑑賞する機会を増やすとともに、参加・体験の機会を提供します。
- VRやオンライン配信など、時代に合った最新技術を活用することで、特に障害者などをはじめとして、来場が困難な方に対する文化鑑賞の環境を構築します。
- 区民に文化をより身近に感じてもらえるよう、時代に合った新しいジャンルの文化事業を積極的に取り入れます。特に若い世代の自由な発想力や想像力を生かした事業を支援し、新たな文化を創造し続ける環境づくりに取り組みます。
- 歌、ダンス、読み聞かせなど、幼児期から文化芸術に触れる機会を提供し、子どもたちが未来を切り拓く創造力を養えるよう、事業を展開します。
- これまで築いてきた、「区民が区民の文化活動を応援し支える」精神を大切にしながら、地域全体で多彩な文化活動を展開することで、豊かな心と活発な交流を育む文化政策の裾野を拡大し、発展させます。

【施策の効果を表す代表的な指標】

指標		現状値	目標値				
		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度
成果指標	「文化芸術に触れる機会が多くなった」について肯定的な回答をする区民の割合【%】	34.6 (2023年度)	39.0	42.0	45.0	47.0	50.0
成果指標	区立劇場、ホールの年間来場者数【万人】	40.9 (2023年度)	44.0	45.7	47.4	49.1	50.9



施策（4-③） 学習活動の支援を通じた生涯学習の推進

目指す姿

○ いつでもどこでも自分に合った方法で学べる環境が整い、多様な学びの機会が広がっている。
○ 学びの成果を次の活動に生かし、人と地域資源の循環(わ)が生まれることで、地域コミュニティが活性化し、新しいアイデアと活力に満ちた変化が実現している。

現状・課題

学びのスタイルの多様化

アフターコロナにおける社会の変化や、ライフスタイルの多様化に伴い、時代のニーズに応じた学習機会を提供することが求められています。
区民の誰もがいつでもどこでも学びに参加できるよう、学ぶ側の多様性に合わせた学びの場を整備する必要があります。

学びと活動が循環する仕組みづくり

学びを生かす場が限定的であり、学びの知識を個人にとどめている方が多い傾向にあるため、学びの成果を活動につなげる仕組みの構築が求められています。
学びの成果を地域の活動に生かせる環境や土壌を整える必要があります。
また、生涯学習をより一層身近なものとするため、情報発信を強化する必要があります。

取組方針

生涯学習の「場」の整備

○ 生涯学習施設を、障害の有無、年齢等にかかわらず、誰もが利用しやすい学びの場として整備します。学校に通えない子ども、居場所を必要としている若者の「サードプレイス」として、子ども・若者が自由に学習や交流ができる場として提供します。
○ デジタル技術やリモート学習ツールを導入し、オンラインで学べる環境を整え、日本語を母語とする・しない、在宅子育て中の方、平日の日中に仕事をしている方など、ライフスタイルに関わらず、誰もが学ぶ機会を得られるよう取り組みます。
○ 子どもが学校以外で学びの体験に触れられる機会を創出することで、学びを通して仲間づくりができ、新たな発見や学ぶ楽しさに気づくなど、子どもたちの豊かな成長と学びを支援します。

ネットワーク構築と学習成果の発信

○ 地域の学びを支援する人材や、学びに係る団体・大学・企業などあらゆる主体のコミュニティをつなげることで、学びのネットワークを構築します。人と人がつながり、情報を共有し、他者と議論や対話をする相互学習を通じて、つながり意識が醸成されることで、地域コミュニティの活性化を目指します。
○ 学んだ成果を発信・発表する場を増やすことで、自分の学びを別の観点からふりかえり、次の学びや活動へつなげる機会を生み出します。
○ リスキリング・リカレントを含めた生涯学習を今まで以上に広く区民の方に周知するため、SNSを活用するなど工夫を凝らした広報活動を行うとともに、区民の目に止まるような魅力的な文化事業を企画・発信します。

【施策の効果を表す代表的な指標】

指標		現状値	目標値				
		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度
成果指標	「地域文化創造館で実施している事業に参加したことがある」と回答した人の割合【%】	40.5 (2023年度)	41.5	42.0	42.5	43.0	43.5
成果指標	学習成果の発表機会数【回】	38.6 (2023年度)	375	400	425	450	475



施策(4-④) 多様な役割を持つ新たな図書館の実現

目指す姿

- 図書館が、本の貸出・閲覧の場としてだけでなく、居場所や交流の場を含め、誰もがそれぞれのスタイルで快適に利用できる文化振興、生涯学習及び地域コミュニティの拠点となっている。
- 図書館を通じて、子どもの読書活動や区民の学習活動がより活発となっている。

現状・課題

情報収集、読書・学習スタイルの多様化

SNS、電子メディア、配信サービス、オンライン販売等の普及により、区民の情報収集、読書・学習のスタイルが多様化しています。

区民の知的欲求が高まる一方、子ども、若者の読書離れ、活字離れが懸念されています。

多様化する区民ニーズに的確に対応するためには、関係機関等とのさらなる連携による読書活動の推進、DX推進によるサービスの充実・効率化等を進める必要があります。

図書館の新たな役割

近年図書館は、生涯学習施設としてだけでなく、地域の活性化やまちづくりに欠かせない存在として注目されています。また、居場所や交流の場など、図書館の新たな役割への期待が高まっています。

新たな図書館への変革には、利用者視点による空間づくりが重要であるため、改築・改修による施設整備の機会を逸することなく最大限活用する必要があります。

取組方針

地域の情報センター、読書活動・学習活動のハブとして図書館の整備

- 地域の文化・観光資源を生かした特色ある図書館づくり、蔵書の充実、他の図書館との連携強化、多様な講座・展示等を通じて、区民の暮らしを豊かにし、地域の課題解決につながる情報発信を進めます。
- 知の拠点として、地域文化の保存・継承を促進するほか、共催事業や相互PRなど地域文化創造館と緊密に連携し、それぞれの興味や関心、学習スタイルにきめ細かく対応することで、生涯にわたる区民の多様な学びを支援します。
- 電子図書館の充実、手続きのオンライン化、サービスのセルフ化等、地域の情報センターにふさわしいDX推進を図ります。
- 保育園、子どもスキップ、地域区民ひろば、小・中学校及び学校図書館、大学その他企業、団体、ボランティア等幅広い主体と連携・協働し、年齢、障害の有無等を問わず、様々な機会、場所、方法で読書を楽しめる環境を確立します。

居場所(サードプレイス)、交流の場、創造の場としての図書館の整備

- 施設の改築・改修にあわせて、家庭、学校、職場とは異なる、ほっとできる居場所（サードプレイス）としての空間づくりを進めます。
- 「子どもと一緒に周囲に気兼ねなく利用したい」、「読書や学習に専念したい」、「カフェコーナーが欲しい」、など、多様な利用者のニーズに応じた居心地のよい図書館環境を整備します。整備にあたっては、子どもがわくわくしながら本と出会えるよう、子ども視点の創意工夫を図ります。
- 図書館や本を通じて、多くの人がつながり、交流できるよう、ホールやグループ活動室など、ハード面の整備、イベントなどソフト面の充実を図ります。
- 図書館が国籍や母語を越えた発見や交流の場となるよう、多文化サービスを拡充します。
- 知識を得る場としてだけでなく、体験型講座、ワークショップ、グループ支援などを通じ、地域の発展とその担い手育成につながる、創造の場としての図書館づくりを進めます。

【施策の効果を表す代表的な指標】

成果指標	指標	現状値	目標値				
		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度
成果指標	年間図書貸出数【冊】	2,092,784 (2023年度)	2,160,000	2,200,000	2,240,000	2,270,000	2,300,000
成果指標	年間図書館来館者数【人】	1,512,313 (2023年度)	1,650,000	1,750,000	1,800,000	1,900,000	2,000,000



施策(4-⑤) 生涯を通じたスポーツ活動の推進

目指す姿

〇区民の誰もが、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツを楽しむことができる環境の整備、充実を図り、スポーツを通じて人と地域がいきいきと輝いている。

現状・課題

スポーツが身近にある社会づくり

区民のスポーツ実施率は近年上昇傾向にありますが、年代やライフステージによる実施率の差が生じているため、生涯を通じて誰もがスポーツに親しむことができる機会の充実が求められています。

競技性のスポーツだけでなく日常生活における運動も含め、誰もが多様な形でスポーツに親しむ機会を充実させていくことが必要です。

スポーツで誰もが輝く環境づくり

コロナ禍の影響により、外出やスポーツ実施機会の減少による体力低下の傾向が見られ、年齢、性別、障害の有無などに関わらずスポーツに親しめる機会が求められています。

子どもから高齢者、そして障害者も、誰もがスポーツを通じて夢を抱いたり、いきいきと生活できる環境を整えていくことが必要です。

取組方針

スポーツの実施機会の充実と環境整備による健康で豊かな生活の実現

- 〇 区民の誰もが気軽にスポーツに親しむことができるようスポーツ関連団体、民間事業者との連携を深めながら、大会、体験イベントなどの事業を幅広く展開することで、スポーツに参加する機会の拡充を図り、生涯を通じたスポーツ活動を促進します。
- 〇 児童の体育施設使用料の免除など、スポーツ実施環境の基盤となる区立体育施設の充実や利用促進を図るとともに、学校施設や公園などの区立施設を有効に活用します。子どもから大人まで幅広い世代に対して、普段の生活のなかで多様な形でスポーツに親しむことができることを普及啓発します。
- 〇 アーバンスポーツの普及、学校部活動の地域移行など、多様化するスポーツの姿や実施形式を的確に捉えつつ、孤立を防ぐ居場所(サードプレイス)など様々な形でスポーツを楽しめる場を提供します。

子どもから高齢者、障害者がスポーツに親しめる機会の充実

- 〇 トップアスリートとの交流の機会を創出するなど、次世代を担う子どもたちがスポーツを通じて夢を抱き、豊かな未来を築くきっかけとなる機会を充実させます。
- 〇 パラスポーツの普及やインクルーシブスポーツの体験機会の充実により、障害を持つ方であってもスポーツを通じていきいきと生活できる環境を整え、スポーツによる地域交流の促進と、人と人が結びつく持続可能な社会の実現を目指します。
- 〇 誰もがいつまでも健康で活力に満ちた生活を営むため、子どもたちのマルチスポーツ体験などを促進し、運動習慣の定着を図ります。また、フレイル対策において最新技術を用いたスポーツを活用するなど、人と社会のつながりを築きます。

【施策の効果を表す代表的な指標】

指標		現状値	目標値				
		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度
成果指標	「地域でスポーツに親しむ環境や機会がある」について肯定的な回答をする区民の割合【%】	16.3 (2023年度)	30.0	31.0	32.0	33.0	34.0
成果指標	「生涯スポーツ推進事業」への参加者数【人】	3,568 (2023年度)	4,500	5,000	5,250	5,500	5,750